平成 26 年度カキ養殖概況

石黒貴裕*・村山史康

養殖規模　平成 26 年度のマガキの漁業協同組合別養殖規模，生産量などを表１に示した。26 年度の経営体数は前年度から１経営体減少し 154 経営体であった。筏台数は前年度から 22 台増加し 2,016 台であった。

養殖用種苗　本年度の生産に使用されたコレクター総数は推定 32,397 千枚であり，広島が３割，地種が７割であった。

養殖経過　本年度の牛窓沖海水温の平年偏差を図 1 に示した。4～11 月にかけて平年値との差は概ね 1℃以内であったが，11 月中旬から下旬にかけて水温は急激に上昇し，平年値よりも 1.7℃高かった。その後，水温は急激に低下し，12 月中旬は平年値よりも 1.8℃低くなった。1 月以降は平年値との差は概ね 1℃以内であった。

クロロフィル a 量の全漁場平均値は，抑制期(4～9 月)では 5.1μg/L で平年並みであった。養成期(10 月～翌 3 月)は 4.3μg/L となり，平年値の 3.0μg/L より 1.2μg/L 高かった[1)]。

本垂下は例年どおり 4～5 月下旬に行われたが，沖出しは 10 月 13 日に台風第 19 号が上陸したため多くの漁場で例年より 2 週間ほど遅れて 10 月中旬頃に行われた。

生産は例年どおり 10 月下旬～11 月上旬にかけて開始された。東部海域（日生町，伊里，邑久町，牛窓町）では 11 月下旬になっても身入りが悪く，ミドリイガイやホヤ，カイメン等の付着物が多数みられた。年明け以降は，クロロフィル a 量が高かったにもかかわらず身入りが改善されなかった。本年度の身入り不良は東部海域のみでみられたものであり，既存のデータからは身入り不良の原因を明らかにすることはできなかった。

生産結果　東部海域の年間生産量は前年度比 54～67%となり過去 10 年間で最低であった。一方，西部海域（寄島町，笠岡市）は，11 月以降身入りが良好であったため，寄島町漁協の年間の生産量は前年度比 113 %となった。全県のむき身生産量は 2,386t で，前年度比 59%であった。

カキ出荷期間中に県が実施したノロウイルス検査では，140 検体中，4 検体で陽性となり，陽性率は 2.9%であった。

その他　県内採苗は日生町漁協，伊里漁協，邑久町漁協，牛窓町漁協で 7～8 月に行われたが,8 月上旬までには予定枚数を確保することができた。

文　献

1）藤井義弘・林　浩志，2014：養殖漁場モニタリング調査事業（カキ），平成 26 年度岡山県農林水産総合センター水産研究所年報，16-17.

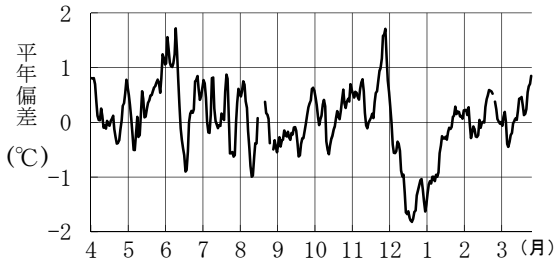

図１　平成 26 年度の牛窓沖海水温における平年偏差の推移（平年値は 1981～2010 年の平均）

表１　マガキ養殖状況(平成26年度)

漁協名	経営体数	筏台数	沖出し時期（月日）	生産時期（月日）	むき身生産量(t)	生産量対前年度比(%)
日生町	51	523	10/15 ― 10/19	10/30 － 3/22	1,074	57
伊里	5	45	9/29 － 9/30	11/5 － 2/28	16	60
邑久町	71	1,236	9/26 － 10/20	10/31 － 4/30	1,000	54
牛窓町	6	122	9/30 － 10/15	10/30 － 3/20	141	67
寄島町	16	72	10/16 － 10/21	11/1 － 3/31	137	113
笠岡市	5	18	－	－	18	－
合計	154	2,016	9/26 － 10/21	10/30 － 4/30	2,386	59

*岡山県農林水産総合センター普及連携部普及推進課